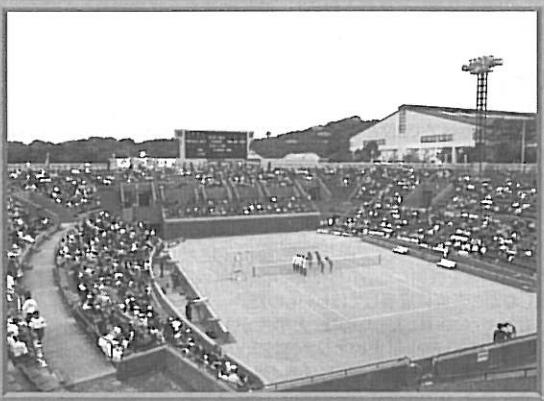


## 第61代全日本チャンピオン

平成18年度

### 第61回天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会

平成18年10月20日(金)～22日(日) 福岡県福岡市 東平尾公園テニス競技場他



男女の決勝戦が行われた東平尾公園テニス競技場のセンターコート  
[6年連続NHK教育テレビで男女決勝戦の模様が全国放送された]



男子優勝 中堀成生・高川経生(広島・NTT西日本広島)  
女子優勝 玉泉春美・上嶋亜友美(兵庫・東芝姫路)



優勝最多記録を7回に伸ばした  
[男子]中堀成生・高川経生(広島・NTT西日本広島)



4年振り2回目の優勝を成し遂げた  
[女子]玉泉春美・上嶋亜友美(兵庫・東芝姫路)

### 平成18年度 各層の全日本チャンピオン

大会名	男 子		女 子	
全日本小学生選手権	西森一貴・山本祐輝(奈良)	桜井ガンバクラブ・王寺ジュニアソフトテニスクラブ	佐々木美和・山瀬侑希(石川)	宇出津ソフトテニス少年団
全国中学校選手権	林田和樹・巽慎也(奈良)	片塙中学校	小林奈央・佐藤那帆(岡山)	就実中学校
全国高校選手権	緒方寛和・和田哲尚(奈良)	高田商業高等学校	中村朱里・新谷佳子(和歌山)	和歌山信愛女子短期大学附属高等学校
全日本学生選手権	玉川裕司・横江忠彦(学連)	中京大学	渡邊愛子・平田清乃(学連)	東京女子体育大学
全日本社会人(一般)	館越清将・齋藤鉢二(秋田)	わか杉クラブ	辻美和・佐伯淑恵(兵庫・岡山)	東芝姫路・岡山市役所
全日本社会人(成年)	上松明裕・本倉正恭(岡山)	岡山市役所	山東美夕紀・山形扶美代(兵庫・大阪)	ホーミークラブ・大阪ファニークラブ
全日本シニア	45	吉岡和幸・兼田忠啓(新潟)	糸魚川テニスクラブ・新潟トキめきクラブ	鈴木明美・伴戸明巳(新潟・北海道)
	50	伊藤信夫・石川雅利(千葉)	市川市役所	増田加奈・苅谷さと志(愛知)
	55	倉田基康・益田財治(岡山・山口)	岡山南高クラブ・下関白球会	岡村信子・松居邦子(兵庫)
	60	中尾和三・高田晴隆(東京)	世田谷テニス	大塚恵美子・林孝江(群馬・埼玉)
	65	野間浩・新垣紫光(沖縄)	軟友会	高羽邦子・水越富士子(大阪)
	70	地曳辰蔵・松下朝生(千葉)	木更津クラブ・船橋習志野台クラブ	和田洋子・住友康江(兵庫)
	75	大川英雄・小口泰良(千葉・長野)	浦安クラブ・岡谷市ソフトテニス協会	深沢恭子・太田穎子(長野)

## 競技者育成プログラムStep-3

### Step-4ソフトテニスジュニアジャパンカップ出場選手選考会兼強化合宿

競技者育成プログラム推進委員会

この事業は、文部科学省及び(財)日本オリンピック委員会指導のもと「国際レベルの競技能力の開発を目指して、競技者の発掘・育成・強化の全体を通じた共通の理念と指導カリキュラムに基づいてそれぞれの時期に最適な指導を一貫して行うこと。また、ソフトテニス競技をより魅力のあるスポーツに育て、競技を通じて青少年の育成に寄与していくこと」を目的に(財)日本ソフトテニス連盟が策定した強化システム「ソフトテニス競技者育成プログラム」における特に重要な位置となる、市町村(Step-1)都道府県(Step-2)で優れた素質を有する競技者の発掘及び育成強化により選考された選手をブロック単位(全国8ブロック)で実施する強化合宿及びStep-4への出場選手を決定する選考会である。初めての事業であるが、どの会場も開催地及びブロック連盟や指導者の方々のご協力により大変充実した選考会兼強化合宿となった。

特に、受付時に選手全員に手渡されるゼッケン(ビブス)着用をコートのみならず宿舎において義務付け、(所属や過去の戦績にとらわれないで指導者が決められたチェックシートの各項目に採点を行う)常に採点されているとの緊張感が会場中にあり、各会場とも自信を付けて変わっていく選手の表情がうかがうことができた研修会となった。

選考に重点がかかりすぎ、指導時間の確保が出来なかった等の様々な反省点をいかして、既に2年目となるStep-1、2も合わせて充実を図ってまいりたいと考えております。

## 競技者育成プログラムStep-4

### Step-5(全日本U-14・18・21)選手選考会及び

### 強化練習会兼第1回ソフトテニスジュニアジャパンカップ

11月23~26日／宮崎県・宮崎市生目の杜運動公園テニスコート

競技者育成プログラム推進委員会

昨年11月23~26日、南国宮崎とは思えない低気圧の影響を受け寒い雨空のかではあったが、大変熱のこもった競技者育成プログラムStep-4が開催された。

ソフトテニスにおける競技者育成プログラムは、文部科学省、JOC指導の下、競技者の発掘育成強化システムである競技者育成プログラム(一貫指導システム)の確立を目指して策定され、昨年本格実施の年を迎えた。

各都道府県で取り組んでいたStep-2を経て、選抜された選手により、全国8ブロックでStep-3(9月~10月)を実施した。Step-3では、全員ナンバーゼッケンの着用を義務付け、所属や過去の戦績に関わりなく各県を代表する指導者が真剣に個人の能力を定められたチェック項目で採点を行い、Step-4に出場する選手を選考していただいた。

今回、このStep-3からの推薦選手に日本連盟推薦選手(指定された18年度の対象大会で上位入賞した選手)を加えた、1カテゴリー40名程度を基本とした全238名の選手および49名の役員指導者が全国各地から4箇所の基点出発空港に集結して、選手団として現地宮崎市に移動した。選手たちのみの基点地集合場所もあり心配でしたが、保護者や指導者の方々のご理解とご協力によりスムーズに現地入りすることができ、また、宮崎入り後の会場ホテルの移動等6台のバスにより効率的にStep-4を実施することができた。

全カテゴリーともに、現時点での各層トップ選手が一同に会しての強化練習および大会であるため、宮崎とは思えない寒い雨空が続いた会場も熱気に包まれた緊張感のある大変充実した研修会となった。

今後日本を代表する選手が、この選手たちのなかから育ってくることが予想されるが、Step-4では夜の講義を含め、日本を代表する選手としての意識付けや勝つためのスポーツ選手のマナー、アンチ・ドーピングの知識をはじめとする様々なトップ選手として必要な条件について学習した。

さらに、国が推進するスポーツ拠点づくり事業にも認定され、今後10年間定着して実施できる第1回ジュニアジャパンカップでは、日本連盟主催大会としては初めての試みではあるが、平等性、個人の能力の見極め、短期間でのペア対応能力の確認等々を目的として、抽選でペアを決定して出場させる取り組みで実施した。このペア決定方法に関しては指導者より様々な意見が出され、懸念される部分もあったが、初年度である今年度は、抽選で決定することとし、今後検討することとした。

心配されたこの決定方法は、初日夜の講義終了後に行なった抽選会実施から各ペアともコミュニケーションを図り、短期間での調整であったが、各カテゴリーともそれぞれすばらしいマッチが行われた(期間中選手に対して実施したアンケートでは、抽選でのペア決定に関する項目において、多くの選手から「大変楽しかった」「良かった」など好評のアンケート結果であった)。

また、指導者をはじめとする各委員や地元宮崎県連盟の方々には雨天が続き運営が難しい状態にもかかわらず、少しでも選手のためにと大変なご尽力をいただき、Step-3同様に、Step-4においても全行程の4日間を通して選手はゼッケンを着用して、定められた項目について採点、データ管理が実施された。

そのため選手が常に高いレベルでの良い緊張感が持続され、日々自信に満ちた表情を感じるほどに、変化していく多くの選手の表情をうかがうことができたStep-4となつたのではないかと思う。

なお、実施通り様々な改善点等も確認することができた。また、全国各地で、このプログラム推進に携わっていただきご協力いただきました方々からの貴重なご意見等も参考にさせていただき、次年度以降の競技者育成プログラム推進に活かしてまいりたいと考えております。

## 第1回ジュニアジャパンカップ

### (男子)

U14は岐阜県勢の活躍が目立った。なんとベスト4に3選手。日頃の熱心なジュニア育成の成果であろう。1位に吉田／小栗(北海道／岐阜)、3位に山田／小池(岩手／岐阜)と古越／青原(岐阜／神奈川)。2位には気合い満点の村上／峯松(富山／大阪)が入った。小学生も昨夏の王者・西森／山本(奈良)を筆頭に堂々たるプレーを見せ、向上心の高さをうかがわせた。



U18は、青原(青森)・泉山(青森)・中本(広島)・村上(三重)・井口(香川)・越智(奈良)など日本連盟推薦選手6人がベスト4入り。ジュニアナショナルチームに名を連ねていた石川(神奈川)と井口のペアが雨天のなかでも迫力満点のテニスで優勝した。中学生王者の林田／巽(奈良)は予選リーグを1位で突破し、決勝トーナメントでは2位・青原／中本と互角の勝負を演じた。

U21は、地元選手以外は全員日本連盟推薦選手である。昨秋の天皇杯ベスト8と成長著しい稲積(日本体育大)が勝負強い真柄(日本大)と組み、コンビネーションのよさを發揮して優勝を収めた。近年の学生の活躍は目を見張るものがあり、日本代表に最も近い世代だけに、大いに精進してほしい。

### (女子)

U14は、ベスト4に入賞した8人のうち7人が西日本の選手。安西(千葉)が三木(岡山)とのペアで2位と健闘した。日本連盟推薦などの関係で全体的に東日本の選手が少なかったのは事実だが、今大会が回を重ねることにジュニア育成に注目が集まるのは間違いなく、将来を楽しみにしたい。第1回大会で優勝したのは岡本／由田(山口／兵庫)の“ダブル後衛”であった。

U18で注目はなんと言ても、小林／佐藤(岡山)の中学生ペア。予選リーグをトップ通過後、決勝戦まで勝ち進み、塙田／伊東(香川／佐賀)とファイナルゲームの白熱戦を展開した。小林はまだ中学1年生。指導者たちのよきアドバイスを吸収しながら素直に成長してほしいものだ。

U21でベスト4に入ったのは、大学生が3人、社会人が5人。同世代の上原(ナガセケンコー)が昨年末のアジア競技大会で日本代表として活躍しただけに、今大会に出場した選手たちの目は熱く燃えていた。最年長の東田(東芝姫路)が意地を見せ、志村(東京女子体育大)とのペアで1位に輝いた。

競技者育成プログラムと、それに含まれるジュニアジャパンカップは日本代表への登竜門だ。扉はすべてに開かれている。己の力で、夢をつかもう!

## 第1回ジュニアジャパンカップ入賞者

### U-14男子

選手名		所属
優勝	吉田 憲人	北海道
小栗 元貴	岐 阜	
村 上 誠	富 山	
準優勝	峯松健太朗	大 阪
第3位	山 田 拓 真	岩 手
	小 池 範 之	岐 阜
第3位	古 越 俊 也	岐 阿
	菅 原 貴 之	神 奈 川

### U-14女子

選手名		所属
優勝	岡本 愛 佳	山 口
由 田 優 希	兵 库	
三 木 菜 苗	岡 山	
準優勝	安 西 瑛 美	千 葉
第3位	市 坪 夏 奈	鹿 児 島
	矢 羽 田 知 里	熊 本
第3位	上 西 亜 里 加	和 歌 山
	横 尾 仁 美	岡 山

### U-18男子

選手名		所属
優勝	石 川 裕 基	神 奈 川
井 口 雄 一	香 川	
準優勝	菅 原 徹	青 森
中 本 圭 茂	广 島	
第3位	村 上 雄 人	三 重
越 智 大 輔	奈 良	
第3位	村 田 直 樹	福 岡
	泉 山 翔 太	青 森

### U-18女子

選手名		所属
優勝	塙 田 光 理	香 川
伊 東 ひ か る	佐 賀	
準優勝	小 林 奈 央	岡 山
佐 腰 那 帆	岡 山	
第3位	柏 原 香 灵	愛 媛
阿 部 悠 梨	愛 媛	
第3位	三 好 由 佳 子	福 岡
森 原 可 奈	广 島	

### U-21男子

選手名		所属
優勝	稻 橋 京 之 介	日本体育大学
	真柄壮太郎	日本大
準優勝	佐藤 喜 大	関 西 大
	日 野 智 章	日本体育大学
第3位	寒 河 江 幸 平	明 治 大
	中 尾 寛 之	中 央 大
第3位	行 德 光 弘	中 央 大
	北 見 和 大	日本体育大学

### U-21女子

選手名		所属
優勝	東 田 早 代	東 芝 姫 路
志 村 紀 子		東京女子体育大
準優勝	山 口 真 央	東京女子体育大
大 庭 彩 加		NTT日本広島
第3位	中 川 静 香	ナガセケンコー
前 道 香 織		NTT日本広島
第3位	杉 本 融	東 芝 姫 路
中 川 佳 奈 美		日本体育大学

## 平成17年度事業報告(平成17年4月~平成18年3月)

1. 選手強化育成に関する事業
  - (1) ナショナルチーム強化合宿 男子5回・女子5回
  - (2) ジュニア選抜強化チーム(ジュニアナショナルチーム)強化合宿 男子2回・女子2回
  - (3) 強化スタッフの各種大会派遣 7大会
2. 指導者養成に関する事業
  - (1) 指導者研修会の実施(各支部より小・中・高校生指導者各1名の140名参加)
  - (2) (財)日本協同コーチ養成専門科目講習会の実施(受講者24名)
  - (3) 指導者パンクの立ち上げ
3. 地域グループ育成に関する事業
 

各支部に対し、会員登録一般の20%、中学生の20%、小学生の50%を還元し、地域クラブ・ジュニアクラブの育成およびジュニア普及等の充実を図った。

また、各支部に対し中学生大会・レディース大会・ソフトテニスの日・指導者パンクの補助を行った。
4. 国内競技大会に関する事業(主催共催大会の実施)
5. 地域における競技会に関する補助事業
 

9地区選手権大会、地区高等学校選抜大会、10地区中学校選手権大会、壮年東西対抗大会、超壮年東西対抗大会、全日本学生同好会大会の開催に対して補助を行った。
6. 公認審判員制度に関する事業
  - (1) マスター・レフェリー94名、マスター・アンバイヤー38名を認定
  - (2) 公認1級審判員新規81名・更新269名を認定
  - (3) 公認2級審判員新規5,529名・更新4,427名、高校生18,344名を認定
  - (4) 公認ジュニア審判員16,034名を認定
  - (5) 1級審判員の検定会2会場・研修会8会場の実施
  - (6) ハンドブック22,818冊・探点票5,623冊・オーダー用紙1,797部の頒布
7. 技術等級制度に関する事業
  - (1) 名誉指導員2名を認定
  - (2) 技術等級(EX~4級)5,788名を認定
8. 用具・施設の公認に関する事業
  - (1) ラケットの証紙445,795枚・ネット証布3,200枚を頒布
  - (2) 7社48種類のラケットを公認
9. 広報に関する事業
  - (1) 機関誌「ソフトテニス」毎月1回の発行(支部購読1,594名 個人購読499名)
  - (2) 主要大会のテレビ放送の実施(スポーツ衛星放送「ガオラ」のレギュラー番組放送)
  - (3) 第60回全日本選手権大会のNHK教育テレビで全国放映の実施
  - (4) 平成17度大会記録集を作成し、支部・報道機関等へ配布
  - (5) ホームページの維持
10. 各種表彰の実施
11. 國際競技大会への代表選手団等の派遣
  - (1) 第4回東アジア競技大会(マカオ)
  - (2) 第13回日・韓・中ジュニア交流競技会(日本・札幌市)
  - (3) 第4回チャイニーズカップ国際ソフトテニス大会(中国・天津市)
  - (4) 第1回ハンガリー国際ソフトテニス大会(ハンガリー・ブダペスト)
  - (5) 第3回中山杯国際ソフトテニス大会(中華台北・台中)
12. 國際普及の促進に関する事業
  - (1) 海外長期滞在指導者を派遣
  - (2) イタリア・ローマへのジュニア派遣
  - (3) ヨーロッパ各国への普及指導のため、指導者と選手を派遣
  - (4) ヨーロッパジュニア大会へのジュニアチーム派遣
  - (5) ドミニカ共和国等中米への指導者および親善交流チーム派遣
  - (6) キューバ共和国に普及指導者を派遣
  - (7) タイランド・ナショナルユースゲームソフトテニス競技への観察派遣
  - (8) マカオ・チャイナソフトテニス選手マカオ普及強化のための来日研修受入
  - (9) 用具・用品の支援(ボール19の国と地域・ラケット19の国と地域)
13. 國際大会の開催促進に関する事業
  - (1) 第13回日・韓・中ジュニア交流競技会北海道大会に参加及び支援
  - (2) 第4回東アジア競技大会に参加及び支援
  - (3) マカオ・チャイナソフトテニス選手来日研修生受入

## 会員登録料に関する使途概要(平成17年度)

会員登録料の使途は主として

1.競技力向上「競技者育成プログラム推進」

2.競技性向上

3.国際性向上

4.大衆化促進

5.広報活動の強化

等々の事業拡充のために用いられていますが、その他として、学連・高体連への還元、会員の傷害補償金および制度運営のための事務費にも充てられています。具体的な金額は一般会計や特別会計のなかで従来からの支出科目に組込まれているため、かならずしも明確な仕訳になってしまいませんが、登録料を原資にした補充額は平成17年度は概ね次のとおりでした。

(競技力向上 62,934千円)

- ・選手強化費(ナショナルチーム・ジュニアナショナルチーム合宿) —— 27,760千円
- ・競技者育成プログラム推進費 —— 18,556千円
- ・医科学研究費・指導要領等作成費 —— 13,872千円
- ・コーチ養成講習会費 —— 2,746千円
- (競技性の向上 27,377千円)
  - ・大会開催地関係費・地域大会への増額・大会表彰の充実 —— 17,519千円
  - ・全日本小学生大会・都道府県中学校大会 —— 9,858千円
  - (国際性の向上 27,658千円)
    - ・国際大会派遣費 —— 2,153千円
    - ・国際大会振興補助費 —— 5,327千円
    - ・国際普及用具用品購入費 —— 2,230千円
    - ・国際普及指導費 —— 7,948千円
    - ・国際大会積立の一部 —— 10,000千円
- (大衆化の促進 50,809千円)
  - ・地域グループ育成費(各支部へ一般登録料の20%還元) —— 10,482千円
  - ・ジュニア育成費(各支部を通じて中体連登録料の20%・小学生の50%) —— 25,839千円
  - ・指導者パンクの確立補助費 —— 1,750千円
  - ・ソフトテニスの日・支部レディース大会 —— 6,850千円

・審判・指導者育成費(小・中・高校生指導者研修会)	5,888千円
(広報活動の強化 33,245千円)	
・テレビ放映関係費	
NHK全日本選手権大会の放映・衛生放送ガオラでの毎月レギュラー番組提供の一部	21,903千円
・ボスター等作成費	1,207千円
・インターネット関係費	9,362千円
・会員報作成費	773千円
(傷害補償制度 2,237千円)	
・傷害補償給付金	2,237千円
(その他 15,767千円)	
・運営費補助	
学連への還元(大学生登録料の50%)	2,117千円
高体連への還元(高校生登録料の10%)	5,117千円
中体連への還元	450千円
・会員登録事務費	8,083千円

## 平成17年度一般会計 収支決算報告(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(収入の部)	(千円)	(支出の部)	(千円)
1.分担金収入	259,797	1.事業費	260,440
(1)支部分担金	7,500	(1)大会観戦費	1,579
(2)会員登録料	220,027	(2)指導要領等作成費	12,439
(3)維持会費	32,270	(3)医科学研究費	1,443
2.事業収入	165,015	(4)競技者育成プログラム推進費	18,556
(1)大会参加料	22,519	(5)審判検定会・研修会	1,370
(2)出版物収入	19,853	(6)地域グループ育成費	46,331
(3)用具検定費	28,824	(7)大会開催地関係費	43,414
(4)公認審判認定料	81,861	(8)地域大会補助費	2,150
(5)技術等級認定料	11,955	(9)大会役員関係費	3,809
3.補助金収入	1,523	(10)その他大会関係費	1,254
4.協賛金寄付金収入	29,750	(11)公認審判関係費	43,187
(1)協賛金	29,750	(12)技術等級関係費	7,191
(2)寄付金	0	(13)用具検定作成費	1,370
5.雑収入	5,968	(14)広報活動費	45,049
(1)預金利息	1	(15)表彰費	10,091
(2)広告料	2,760	(16)国際関係費	21,207
(3)その他収入	3,207	2.管理費	89,143
6.総入金収入	343	(1)人件費	39,645
(1)募金会計	343	(2)会議費	10,536
当期収入合計	462,396	(3)一般管理費	31,279
前期繰越収支差額	55,787	(4)運営費補助	7,683
収入合計	518,183	3.加盟費	922
		4.総入金支出	82,532
		5.予備費	0
		当期支出合計	433,037
		当期収支差額	29,359
		次期繰越収支差額	85,146

## 平成17年度助成事業特別会計 収支決算報告(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(収入の部)	(千円)	(支出の部)	(千円)
1.日本体育協会	2,469	1.日本体育協会	3,699
2.日本オリンピック委員会	2,097	(1)地域スポーツ指導者養成講習会	0
3.スポーツ振興基金	2,500	(2)国体役員派遣費	954
4.くじ助成	150	(3)公認コーチ養成講習会	2,745
5.その他の助成	650	2.日本オリンピック委員会	19,361
6.大会参加料	2,144	(1)競技力向上費	19,361
7.機関誌関係	9,027	3.スポーツ振興基金	27,244
8.雑収入	4,264	(1)競技力向上費	8,399
9.総入金収入	44,332	(2)全日本選手権大会	9,046
当期収入合計	67,633	(3)国際大会チーム派遣費	9,799
前期繰越収支差額	0	4.くじ助成	15,830
収入合計	67,633	(1)指導者研修会	4,518
		(2)機関誌関係費	10,334
		(3)ドーピング検査費	978
		5.その他の助成	1,499
		(1)トータルスポーツクリニック	1,499
		当期支出合計	67,633
		当期収支差額	0
		次期繰越収支差額	0

## 平成17年度会員傷害制度事故実績

本連盟独自の傷害制度の17年度給付状況と主な傷害内容は、次のとおりでした。

事故件数 35件(30件)

支払保険金 2,214千円(1,201千円)

( )内は平成16年度実績

傷害内容	一般	大学生	高校生	中学生	小学生	計
アキレス腱断裂	10	0	0	0	0	10
骨折	1	0	0	0	0	1
靭帯損傷	5	1	1	0	0	7
肉離れ	5	0	0	0	1	6
その他	9	0	1	0	1	11
計	30	1	2	0	2	35

充分なウォーミングアップで事故を防止し、ソフトテニスを楽しんでください。万一傷害に合われた場合は、本連盟にお問合せ下さい。

なお、補償内容・給付金請求の手続き方法については日本ソフトテニス連盟ホームページの「日本連盟情報」に記載されております。

## 会員登録者数の実績

(数値:名)

種別	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	一般	合計
平成17年度	18,084	213,181	96,335	344	7,266	52,422	387,632
平成16年度	19,410	369,672	94,305	115	7,153	49,616	540,271
平成15年度	16,739	370,521	90,116	216	6,654	49,417	533,663
平成14年度	16,654	370,570	87,409	247	6,255	49,083	530,218
平成13年度	11,448	350,556	83,864		6,299	48,683	500,850

## 平成17年度会員登録数

支部名	一般		小学生		中学生		高校生		高専		学連		合計	
	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数
北海道	198	2,684	29	601	297	6,563	174	3,924	2	31				13,803
青森	57	701	13	253	94	3,815	46	1,209	0	15				5,993
岩手	69	1,815	29	587	155	5,446	85	2,628	1	24				10,500
宮城	76	783	20	355	155	2,565	91	2,880	1	12				6,595
秋田	30	655	9	301	49	1,342	51	1,556						3,854
山形	35	675	17	511	74	3,159	48	1,624						5,969
福島	71	1,053	30	727	172	8,223	82	2,194						12,197
茨城	60	962	12	302	152	7,770	85	2,183	1	6				11,223
栃木	46	666	8	284	98	4,323	51	1,308						6,581
群馬	45	1,019	16	653	158	7,233	56	1,612	1	18				10,535
埼玉	248	4,371	31	1,274	328	13,231	206	4,777						23,653
千葉	110	2,236	17	463	242	8,868	114	3,312						14,879
東京	138	2,968	15	496	48	1,102	144	4,545						9,111
神奈川	104	1,384	7	279	295	13,156	140	3,362						18,181
山梨	38	413	13	386	61	1,767	37	1,028						3,594
新潟	68	1,103	21	605	147	5,207	70	1,719						8,634
長野	21	935	16	408	125	4,879	77	2,116						8,338
富山	23	441	14	407	55	883	31	1,075						2,806
石川	61	765	18	408	72	2,848	47	1,207	2	46				5,274
福井	39	660	5	174	41	1,617	18	742						3,193
静岡	121	1,569	17	635	292	12,053	96	2,072						16,329
愛知	139	2,802	20	727	347	17,831	150	6,419						27,779
三重	47	654	15	402	165	7,328	52	1,446	1	10				9,840
岐阜	57	1,016	27	788	263	7,990	50	1,936						11,730
滋賀	28	613	12	461	10	16	39	1,806						2,896
京都	97	956	13	228	72	1,674	58	1,560						4,418
大阪	97	2,130	16	351	123	661	186	3,728						6,870
兵庫	73	1,405	11	186	37	647	161	5,545						7,783
奈良	29	828	5	193	58	2,446	34	1,066						4,533
和歌山	61	725	29	293	116	4,056	48	1,198						6,272
鳥取	25	437	19	348	25	577	25	662						2,024
島根	50	543	9	181	60	2,069	28	1,058						3,851
岡山	66	636	15	265	76	1,633	80	2,664						5,198
広島	105	1,483	20	348	124	2,409	106	2,750						6,990
山口	71	1,055	10	353	97	4,301	66	1,960	3	79				7,748
徳島	23	483	8	118	100	2,789	31	664	1	34				4,088
香川	25	350	5	148	57	2,611	31	800						3,909
愛媛	39	659	7	195	132	5,175	70	1,477						7,506
高知	31	437	8	130	52	1,464	31	628	1	16				2,675
福岡	58	932	13	232	17	147	100	2,714	1	25				4,050
佐賀	24	469	11	247	76	3,660	43	874						5,250
長崎	44	1,146	11	279	168	6,648	107	2,517						10,590
熊本	69	1,166	18	348	154	5,997	64	1,637	1	28				9,176
大分	49	807	14	249	109	3,284	32	746						5,086
宮崎	53	961	15	427	47	3,668	46	1,149						6,205
鹿児島	111	1,432	25	390	219	5,921	107	1,632						9,375
沖縄	29	426	7	88	63	2,129	40	626						3,269
日本学連													509	7,266
日本連盟	1	13												13
合計	3,159	52,422	720	18,084	5,877	213,181	3,534	96,335	16	344	509	7,266	13,815	387,632
昨年度	3,232	49,616	671	19,410	7,758	369,672	3,697	94,305	6	115	512	7,153	15,876	540,271

(平成18年3月31日現在)